

第8回 高麗郡建郡歴史シンポジウム

日本古代の
新羅系移住民と在地社会！

2013年から開催してきた高麗郡歴史シンポジウム。
高麗郡の建郡の背景をより理解するため、
2021年はさらに視点を広げます。
日本における新羅の影響に重点を置き、
「古代新羅の日本への影響の実態について」論議します。



◀▲下野薬師寺。上は金堂の推定復元CG、左は回廊の復元（栃木県下野市教育委員会提供）



国宝・那須国造碑（栃木県
大田原市 笠石神社提供）

期 日

2021年12月5日 日 13:00~16:40

会 場

日高市総合福祉センター「高麗の郷」1F 研修室

注) 新型コロナウイルスの関係で変更または中止の場合もあります。参加の際は、体調チェック、マスク着用、手指消毒等にご協力ください。

12:30	受付
13:00	開会あいさつ（総合司会 中野高行：慶應義塾大学講師）
13:15	講演Ⅰ 「7～8世紀の新羅と日本」（文献） 講師 酒寄雅志：國學院大學栃木短期大学教授
14:15	講演Ⅱ 「古代下野国における新羅系文化」（考古） 講師 山口耕一：栃木県下野市教育委員会文化財課長
14:45	講演Ⅲ 「那須国造碑と地域支配の動向」（考古） 講師 眞保昌弘：国土館大学文学部教授
15:15	休憩
15:30	パネルディスカッション 「日本古代の新羅系移住民と在地社会！」 コーディネーター 須田 勉：元国土館大学教授 コメンテーター 柿沼亮介：早稲田大学高等学院教諭
16:30	まとめ（コーディネーター）／閉会あいさつ

定 員 70名（申込み先着順）

参加費 一般：1000円

（資料代等）

高麗1300会員：500円

申込み 11月9日（火）10:00より高麗1300

事務局へ、次の①～④のいずれかで。先着順に受け付けます（お名前・連絡先・住所等）

① ホームページ（<http://komagun.jp>）

トピックス記事「申込みフォーム」から

② E-mail（info@komagun.jp）

③ 電話（042-978-7432 不在の場合あり）

④ FAX（042-978-7452）

主催 高麗1300／日本高麗浪漫学会

後援 日高市教育委員会

企画 日本高麗浪漫学会企画運営委員会

講師紹介



酒寄雅志
さかよりまさし

國學院大學栃木短期大学教授

Profile

1949年、川崎市生まれ。1974年、國學院大學文学部史学科卒業。1983年、一橋大学大学院社会学研究科地域社会学専攻博士課程単位取得。國學院大學栃木短期大学教授。國學院大學大学院講師。獨協医科大学看護学部講師。NHK Eテレ「アクティブ10 レキデリ」「ねこねこ日本史」「歴史にドキリ」監修。専門は日本古代史、東北アジア史、渤海史の他、円仁や吉備真備などの遣唐使関係の研究。主な著書に『渤海と古代の日本』、共編著に『円仁とその時代』『世界歴史大系 朝鮮史1 渤海』など

講師からのメッセージ

7世紀の唐による中国の統一は、東アジア諸国に大きなインパクトを与えた。それぞれの国において、権力体制の再構築と周辺諸国との離合集散が図られ、唐の覇権に対応しようとした。しかし百済、高句麗があいついで滅ぼされると、難民が日本列島へも流入することになった。さらに新羅は朝鮮半島支配を進めようとした唐を駆逐する戦いの中で、倭との関係を強化していったが、この混乱のなかで新羅人の渡来も増加した。701年の大宝律令の制定とともに、「東夷の小帝国」を指向した日本は、百済郡、高麗郡を設ける一方、新羅とは対立を深め、藤原仲麻呂による新羅征討が計画され、ついには両国の関係は断絶した。本報告では、こうした動向を改めて検証し、7～8世紀の東アジア情勢が、日本に与えた影響に言及したい。



山口耕一
やまぐちこういち

下野市教育委員会事務局文化財課長（学芸員）

1963年、栃木県生まれ。奈良大学文学部史学科卒業。下野市教育委員会文化財課で国史跡下野国分寺跡・国分尼寺跡、下野薬師寺跡、甲塚古墳などの調査と史跡整備を担当。著書・編書：『古代の開発と地域の力』2014 高志書院（共著）/『国分寺の創建－思想・制度編－』2011 吉川弘文館（共著）/『栃木を掘る』2016 随想舎（編）/『戦乱でみるとちぎの歴史』2020 下野新聞社（共編）/『図録しもつけ風土記の丘資料館展示解説』2021 随想舎

6世紀後半以降、下毛野の中心地であった現在の下野市周辺地域の古墳や集落跡では、半島の系譜と想定される遺構や遺物が確認されている。また、日本という国家の誕生を迎える怒涛の7世紀には、地方でも国の再編が行われ、下毛野国は那須国を併合し下野国となる。さらに『日本書紀』持統朝期の渡来系移民の下毛野国移配を裏付けるような半島系土器を中心とした遺物が、この下野の中心地から多数出土している。同時期には下野薬師寺や初期官衙と評される西下谷田遺跡などが当地域に配置される。これら巨大施設建設と共に、地方豪族出身ながら律令国家の核となる大宝律令の編さん事業の中心的役割を担った下毛野朝臣古麻呂の輩出と、その背景となった下毛野の地に展開した渡来系文化の影響について考えてみたい。

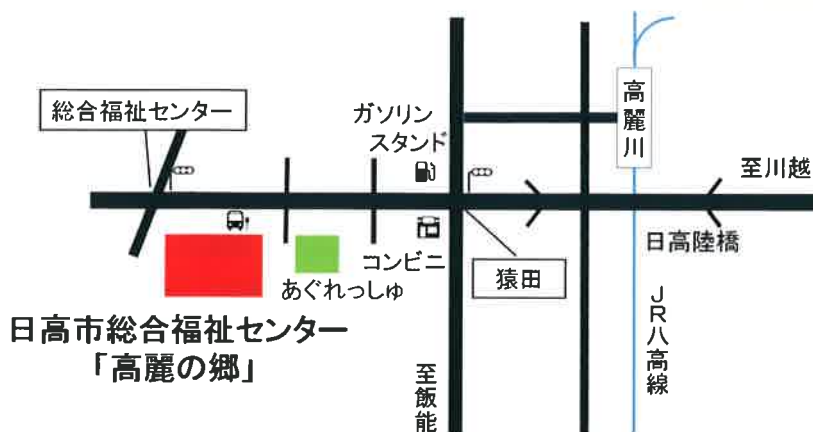


眞保昌弘
しんぼまさひろ

国士舘大学文学部教授

1963年、埼玉県生まれ。国士舘大学文学部史学地理学科国史学専攻考古学コース卒 博士（人文科学）著書：『古瓦の考古学』2018 ニューサイエンス社（共著）/『日本考古学・最前線』2018 日本考古学協会（共著）/『古代国家形成期の東国』2015 同成社（単著）/『日本の金銀山遺跡』2013 高志書院（共著）/『近世の好古家たち－光圀・君平・貞信・種信－』2008 雄山閣（共著）/『侍塚古墳と那須国造碑』2008 同成社（単著）

水戸光圀により解説が進められた那須国造碑は、整然と配置された152文字により、唐（周）新羅でわずかに10ヶ月使用された「永昌」（689年）年号、碑主となる那須直章提の官歴と卒日、事績と勲功を交えた一族の意志継承が表示される。建立は章提が死去した庚子（700年）の直後であり、白村江の戦いで停止していた遣唐使が再開され、急速に唐との関係を深めていく時期となる。形状は新羅真興王により半島北部域に建立される方柱形状蓋首碑を採用するなど7世紀後半代に東国の律令制開明の担い手となった新羅人との深い結び付きが考えられる。また、立地が那須郡衙や隣接寺院と河川を隔てた侍塚古墳群など継続的に古墳造営の認められる地域となり、石碑の建立と碑文からも中央集権的国家の展開に伴い権威を失いつつある伝統勢力による譜第性の主張をうかがうことができる。



【会場】

日高市総合福祉センター「高麗の郷」

埼玉県日高市榎木（にれぎ）201

☎042-985-9988

- ・JR八高線 川越線 高麗川駅より徒歩約15分
- ・高麗川駅から国際興業バス「飯能駅行」に乗り、「総合福祉センター前」下車
- ・お車の場合、無料駐車場あり
※臨時駐車場をご利用いただく場合があります

【お問い合わせ】 高麗1300（日本高麗浪漫学会）事務局

☎042-978-7432 〒350-1243 埼玉県日高市新堀 855-3

E-mail info@komagun.jp ホームページ <http://komagun.jp>